

今回は土屋修先生ご担当の保育キャリア基礎演習「数的推理」の授業を見学させていただいた。自らも担当した授業なので、先生の授業展開の方法、また理数系に苦手意識をもつ学生の学習意欲を引き出す方法等について、強い関心があった。

授業の冒頭、総長先生が学生に向けて、次のようなメッセージを贈られた。民間の会社は大企業でも社会変動により経営難に陥る。このコロナ禍で、就職内定取り消しになる学生も少なくない。ぜひ公務員を目指してほしい。生活が安定し幸せになれる。家族や高校の恩師の先生も喜んでくれる。真面目にコツコツと学び続ければ、全員が合格可能である。本学の先生が1回1回心をこめて教えるので、1科目1科目しっかり学ぶようにとの言葉で結ばれた。

土屋先生の授業は、総長先生のおっしゃるところの、まさに心のこもった授業そのものであった。USB 書画カメラを活用し、小学校の算数で学習したと思われる内容を、写真、マグネット教材、学習用時計等の実物を用いながら、わかりやすく説明していらした。質問しやすい環境が作られており、先生のチャットには、疑問点のある学生からの質問が寄せられていた。先生は丁寧にその質問に答えていらした。「秒速を時速に直す」、「メートルをキロメートルに直す」など単位換算について、先生がわかりやすく説明されていたのにもかかわらず、質問が出た。質問はきわめて基礎的な知識についてのものであったが、総長先生が「みんな理解できたかな?」「わからない人はどこがわからない?」と何度も学生に問いかけていらしたのは、このような学生を置き去りにしないためであると納得した。

公務員保育士の試験対策資料によれば、この数的推理の問題で、8割以上の得点を目的とすべきであり、数学が苦手だからと避けて、むしろ得点を稼ぐつもりで取り組むことが大切だとある。土屋先生の授業の受講生ならば、類題に何度も挑戦しながら時間をかけずに解くコツをつかめば、この目標達成は可能であると思った。

私が担当する「文章理解」は、問題数が多くて問題を解くのに時間がかかるが、上記の資料によれば、ここで多く得点できると有利になるという。読解力を身につけるには時間がかかるが、土屋先生のように心をこめて指導していきたいと思う。